

ング大学で開かれたが、非常に印象に残っているのは、ローカルホストとしての Bryan Hoskins 教授の大活躍である。秘書の女性は 1 人手伝っていたが、ご本人は、座長としての会議の進行役は当然としても、朝夕の会議室の開閉から、飲み物のチェック、記念撮影の手配、送迎バスの手配まで、すべてほとんど 1 人でやっておられた。会場のすぐ隣が気象学教室で、ご自分の学生もたくさんおられるようなので、出席者の誰かが「そんなことは若い学生さんに頼めばいいのに。」と彼に言ったところ、「いや、頼むのもめんどくさいし、彼らは彼らの仕事がありますから。」とひとり返されたことに、私は、さすが Hoskins 教授だと大変感銘を受けた。一方で、会議出席者に対し、「(このような WCRP 推進のためのトップ会合がここで開かれているということは、)若い院生にとって、世界的な研究者と自由に話ができる稀ないい機会ですからぜひお願いします。」

と依頼して、会議のなか日のコーヒープレイク時に、院生や若手研究者との交流会をわざわざ設けるといふ、若い人への教育的配慮もきっちりとされていた。レディング大学が、気象学気候学において、英国のみならず、世界をリードする研究教育機関になりつつある、あるいはすでになっているのは、Hoskins 教授のほか、THORPEX の Thorpe 教授やアジアモンスーン研究の Julia Slingo 教授など、国際的な研究プログラム、プロジェクトに積極的にコミットしつつ、しかもこのような機会を若手の教育にもうまく生かし、大事にする姿勢の研究者が多く集まっているからではないだろうか。

参 考 文 献

住 明正, 2003: JSC-23 報告. 天気, 49, 509-513.

気象技術講習会開催のお知らせ

(社) 日本気象学会は、(財) 気象業務支援センターと共催で、気象予報士や民間の気象業務従事者などを対象とした講習会を以下の要領で実施します。

1. 講習会名称：気象専攻課程講習会「メソ気象」
2. 講習内容：メソ気象学について最先端の研究者及び実際の子報担当者が、メソ気象学の子報への利用法や可能性について解説する専門講座で、その内容は、以下の通りです。
「メソ気象概論」「竜巻、ダウンバースト」「境界層のメソ気象」「メソスケール予報の現状」「非静力学モデルによるメソスケール予報」
3. 期間・時間：
2004 年 1 月 20 日 (火) 13:30~16:20
1 月 21 日 (水) 09:30~16:20
1 月 22 日 (木) 09:30~12:20
(講習終了後、レポートを提出して頂き、合格者に「修了証」を発行します)
4. 受講料：1 人 20,000 円 (教材費込み、税込み)
5. 講習会場：(財) 気象業務支援センター 4F 会議室

東京都千代田区神田錦町 3-17 東ネンビル
(地下鉄東西線竹橋駅下車徒歩 3 分)

6. 定 員：40 名 (定員になり次第締切)
7. 申込締切：2004 年 1 月 15 日 (木) 当日消印有効
8. 申込方法：「メソ気象講習会」受講希望と明記し、必要事項 (住所、氏名・ふりがな、電話番号、勤務先/学校名、年齢) を書いて、以下の申込先にハガキまたは Fax あるいは E-mail で申し込んでください。
9. 申込先：〒 101-0054
東京都千代田区神田錦町 3-17 東ネンビル
(財) 気象業務支援センター「メソ講習会」係
Fax : 03-5281-0446
E-mail : kousyuu@jmbc.or.jp
詳細は (財) 気象業務支援センター (<http://www.jmbc.or.jp/>) 及び (社) 日本気象学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>) に掲載。案内書は上記申込先にハガキまたは Fax で請求してください。